肩たたきに抵抗した三化・三合
〝だれがなんといおうと ワッペンはずさぬ〟

▽…三井化学は去る九日、団交の席上で組合側に「希望退職者募集をうちきり、指名解雇……△
▽……はしない」と通告した。三化大牟田工場では三化・三合両労組の家族ぐるみのたたか……△
▽……いで、会社の首切りに抵抗したが、こんど予想される一層の合理化攻撃にわれわれも……△
▽……三化・三合の労仂者とガッチリと共斗を組もう。……△

目標の三分の一

去る四月一一日の希望退職者募集開始いらい組合側のはげしい反対運動にゆすぶられてきた三井化学は、ついに五月九日午後二時すぎからの団体交渉で、「希望退職募集をうちきる。指名解雇はしない」と通告し、はげしい肩たたきを伴って強行された今回の首切りは一応終りをつげた。

会社側の発表によると、六〇〇名の募集人員のうち、四月中にやめた人が四五〇名、期間前（一月以降）にやめた人が九〇名、その他二〇名を含めて合計五六〇名となり、ほぼその目的を達したとしている。

大牟田工場では目標四〇〇名のうち部課長、社員を含めて二〇八名の退職者を出し、とくに三化・三合労組の抵抗は会社の意図を約三分の一程度におさえることに成功した。

「肩たたき」うけた人を職場でつつむ

三化・三合のたたかいの底力となったのは、なんといっても各支部（職場単位、三化労組には一五五支部ある）が、肩たたきをうけた人をガッチリとつつみ、たたかったことがあげられる。

たとえば、ある支部では「もし誰か午前中に肩たたきをうければ全員で昼休みにその職制に抗議する。午後にうけた人があれば四時以降に全員で抗議する」という体制をつくることに成功したし、また他の支部では肩たたきをうけた人には、なるべく碁や将棋を申しこんで、その人が気持のうえで孤立しないように皆んなで考えたりした。

また、できたばかりの地域分会では、肩たたきをうけた人の奥さんを皆んなで励げまそうと、奥さんたちばかりの一泊旅行をしたところもある。

青年部パトロールも

青年部では職場点検隊と地域ごとのパトロール隊をつくり、肩たたきをうけた人を激励してまわった。また、職場でも一日一回は必ずあって激励した。

南は熊本、北は久留米にいたるまでパトロール隊員はとびまわった。ある隊員は「やりがいがあります。時間がだいたい決まっているので、わざわざ家の前に出て待っておられる家もあります」と語っている。

一人一人が抵抗した

まったく不当な会社の肩たたきに、一人一人が強く抵抗したことも見のがせない。ある職場では女の人が職制から退職金の額まで示されて退職を勧告されたが「あんたに加算分の一〇万円をやるから私は停年まで辞めない」といってハッキリと拒否した人もいる。

予想される合理化

今回の合理化のねらいは労仂者のはげしい抵抗により必ずしも貫徹されなかったが、今後はさらにはげしい合理化攻撃が予想されている。

われわれも三化の労仂者とともに合理化反対のたたかいを力強くすすめよう。

写真は首切り合理化に反対して、三化構内をデモする組合員

ほやほや訪問（10）

宮浦　小山一弘さん（26）　松代さん（22）

賃金は安くても 自信を持って！

チョットびっくり

二年半の二人の恋愛にピリオドを打ったのは三月二〇日。延命会館ホールに満員の参加者を得て盛大な結婚式が行なわれた。

一弘さんは宮浦鉱仕繰工、職場では中央委員をつとめる活動家。

松代さんは大地評診療所でレントゲンの助手をしているが、二人とも労仂運動の中で知り合った仲だけに、新婚家庭もなかなか戦斗的（？）である。

家事も上手に

共かせぎで、しかも一弘さんが夕方家にいるのは週に一回ぐらいといういそがしさの中で、二人の協力がなにより大切だ。

「恋愛中はなかなかわからなかった欠点も、結婚してみると少しづつ表面に出てきた」そうだが、それでも食事の片づけが一弘さんもだんだん上手になってきたと、松代さんは採点している。

「フトンの片づけ方が上手になってきたネ」と評価はまだ甘いようだ。

一弘さんは会社の一方的なデッチ上げにより三月二一日（結婚式の翌日）から一〇日間の出勤停止という全く不当な処分をうけた。

スタートからのこの攻撃にはさすがの松代さんも「チョットびっくりしました」といっていた。

子どもを三人ぐらい

一弘さん「金の面からいうならば奥様に食わしてもらうということになるから、やはり大事に……」松代さん「いくら賃金が安いからといっても、そんないわれかたをするときらいです。金は少なくても自信を持ってもらわんと……」

二人の話はつきない。しかしきびしいたたかいの日々の中にも二人のユメはある。

「来年の夏ごろまでには一人子どもがほしい。そして将来は三人ぐらいはいてもいいと思う」「二人以上になれば共かせぎはできんですョ。」

ユメも楽しいが現実もきびしい。

2人で歩いた
阿蘇の山々を背景に

「電気・水道は元にもどせ」

組夫弾圧に仮処分

昨年九月三池炭鉱に仂く組夫の労仂組合として結成された野元労組（現三池建設労組）に対する会社の弾圧は、活動家の首切り、暴力団の導入、さらに二月三日には解雇された活動家への電気・水道の打切りと、常識では考えられない狂暴ぶりを発揮してきた。

三池炭鉱組夫労仂組合準備会はこの暴挙を福岡地裁大牟田支部に訴え仮処分を申請していたが、同裁判所はさる五月九日要旨つぎのような仮処分を決定し、全面的に組合側の主張を認めた。

一、会社（三池建設有限会社）は電気および水道の利用を妨害してはならない。

一、会社は電気・水道の切断した結分をつなぎ、再び利用できるようにしなければならない。

たたかいの成果

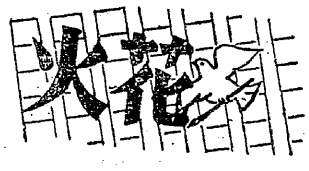
組夫に対する三井資本の全く無法なやり口はすでに広く知られているが、最近はあまりにひどい圧制にたえかね三池炭鉱に見切りをつけてさる者もふえ、一方野元労組（現三池建設労組）のねばり強いたたかいにおされて、期末手当の増額、電気水道料補助の新設などが、三井建設の下請組の親方組織「親和会」で決定されたりしている。

今回の仮処分も、このようなたたかいの一つの成果である。

※　※

目でたしかめ感じとった

明石市　川井貞雄



自分の眼でたしかめて

その後皆さまにはいかがお過ごしでしょうか。本来ならば、私の方から先にお礼の手紙をさしあげるべきところ、暖いはげましのお手紙をいただきまして恐縮致しております。本当にありがとうございました

田中さまはじめ、三池で学んだことは、私にとって大いに勇気と力をあたえてくださったと思っております。

私は昨年四月から、さそわれるままに労大に通い、その中から少しづつこの社会のことがわかって来た次第です。そして三池のことはいろいろ聞いていましたが、百聞は一見にしかず、自分の眼でたしかめ耳で聞き、肌で感じとったものはけっして一言ではいいあらわせません。

地についた活動を

三池にまなぶ会では、はじめはスパルタ的な日程にいささかおどろきましたが、自分が三池にとけこんでゆくうちに、一分一秒がいかに大切か、三池の人たちが寸時を惜しんで、少しでも多く、私たちにこの事実を見てもらおう、伝えようと努力しておられる姿に、けっしていいかげんな気持では、三池におられないことがわかりました。

私たちは、いそがしい、いそがしいと走りまわってはいても、三池の人たちにくらべたら、何とたよりないものか、そしてただの口先だけのものであったか深く反省しました。

自分では社会主義運動に命をかけていると腹をすえているつもりでしたが、三池の皆さまにくらべると、内心はずかしくなります。

表と裏をみて

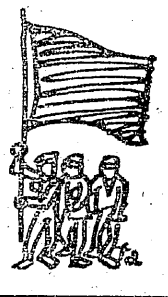
先輩たちは三池に行って、ひどく感動したということをよく話して聞かせてくれますが、私自身はどうした訳か、ほとんど感動しませんでした。自分では冷たい人間かなと考えこむ時がありますが、三池の力強さ、暖かさ、すばらしさだけでなく、三池の弱点も見たような気がするからかもしれません。

しかし、表面的なものだけでなく、裏の方も見ることによって、私には大いに勉強になったと思っております。

また来年もお世話になると思いますが、もう一度、本当の三池を見つめたいと思っております。そしてその中から、前には気づかなかったところ、わからなかったところをさがし出し、自分のものにしたいと思います。

最後に、お世話になりました三池労組の皆さま、主婦会の皆さまにもよろしくお伝えください。

木所支部
田中寿男様



子供など生むな

先日、私の職場の婦人労仂者が子供の病気でやむなく会社を三、四日休んだ。出勤してきたその婦人に勤労係のSがやってきて「アンタはよく休むがどうしたんだ」「子供が病気でしたので」とありのまま答えると、Sは「そんなに子供がたいせつか、そんなにたいせつなら子供など生まなければよいのに」といった。会社はこんなに冷酷であったのだ。ブタめ、何をいいやがる。私は腹の底から怒りがこみ上げてきた。（東海ゴム労組機関紙から）